

1. 評価結果概要表

作成日 平成 20年 2月1日

【評価実施概要】

事業所番号	4271500987		
法人名	有限会社 UTASI		
事業所名	グループホーム うたし		
所在地	〒859-6204 長崎県北松浦郡鹿町町下歌ヶ浦免986番地38 (電話) 0956-77-4056		
評価機関名	特定非営利活動法人 ローカルネット日本福祉医療評価支援機構		
所在地	〒855-0801 長崎県島原市高島二丁目7217島原商工会議所1階		
訪問調査日	平成20年1月24日	評価確定日	平成20年2月29日

【情報提供票より】(平成 19年 10月 1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	昭和(平成) 16年 11月 1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	6 人	常勤 6人, 非常勤 0人, 常勤換算 5.6人	

(2) 建物概要

建物構造	木造 造り		
	1階 建ての	1階 ~	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	0 円	その他の経費(月額)	11,000円・実費 円
敷 金	有(円) (無)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,000円		

(4) 利用者の概要(10月 1日現在)

利用者人数	8 名	男性 3 名	女性 5 名
要介護1	0 名	要介護2	3 名
要介護3	2 名	要介護4	3 名
要介護5	0 名	要支援2	0 名
年齢	平均 80.3 歳	最低 75 歳	最高 86 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	鹿町歯科診療所・川野医院
---------	--------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

海沿いの閑静な住宅街の一角にある当ホームは、入居者の趣味や特技、経歴を大事にされ、入居者の自信や、やる気に繋がられている。絵を描くのが好きな入居者の居室はアトリエを兼ねており、作品は斜交いのサンクス店にも展示されている。又、エプロン姿で厨房に立ち職員と一緒に食事の準備をしながら他愛もない会話を楽しまれている入居者があり、その様子を遠目に楽しまれている入居者達に、煮炊きの匂いと生活音も加わって家庭的なハーモニーが溢れているリビングが生活の中心である。一人ひとりの入居者に安心して居心地よく過ごして頂く為、職員は入居者の出来なくなった事をお手伝いして、出来るだけ長くホームで生活して貰う事を目指されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善項目についての改善計画シートなどの作成はされていないが、後日、改善項目についての報告・話し合いをされている。記録や情報の共有不足は、会議録や研修報告書作成などで、全職員の統一したサービス提供に繋がる取り組みで改善されている。町との関わりも双方向の連絡で構築され改善されつつある。前回の検討課題であるトイレの改装は、今回、前向きな意向を示され、今後の取り組みに期待したい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>全職員で目を通し話し合う中で、グループホームのあり方や職員の見解の相違など相互を知る機会でもあり、業務の見直し・再確認の機会でもある。</p>
重点項目	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)</p> <p>概ね2ヶ月に1回の開催をされており、これまでに5回開催されている。運営推進会議では、サービス提供の活動内容などを報告し、参加メンバーからは要望や助言などを聴く機会にされている。又、3月には運営推進会議の一環として心療内科の先生を講師に(認知症について)の講演会を計画されている。他に、会議メンバーの農場に(芋ほり)の招待を受けられ交流をされている。</p>
重点項目	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)</p> <p>本人・家族の声が運営に反映出来るように努められているが、トイレの改装については前年度からの要望であり、前回の外部評価では金銭的な事から検討課題で話し合われていたが、今回は前向きな取り組みの意向を示された。</p>
重点項目	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>入居者が個別に自治会組織活動に参加して、徐々に活動・交流の場を地域に求められ定着し始めているが、事業所と地域の人を支え合うような双方向の関係にまでは至っておらず、事業所としてももう一歩を模索されている。地域行事参加と並行して、更に共に暮らす地域住民の一員として、ホーム機能の地域還元を目指した取り組みと、地域に根ざしたネットワーク作りが望まれる。</p>

2. 評価結果 (詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	開設当初の【自分らしく ありのままに】の理念は、地域の中でも普段の生活が継続して営まれる事を目指したものである。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	職員が一方向的に決めるのではなく、どんなに些細な事でも本人の意思決定を大事にされ、声かけや見守り・観察を通して【自分らしく ありのままに】の支援に繋がるよう、全職員が総力を挙げた取り組みに努められている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	入居者が個別に自治会組織活動に参加して、徐々に活動・交流の場を地域に求められ定着し始めているが、事業所と地域の人が支え合うような双方向の関係にまでは至っておらず、事業所としてもう一步を模索されている。		地域の行事参加と並行して、更に共に暮らす地域住民の一員として、ホーム機能の地域還元を目指した取り組みと、地域に根ざしたネットワーク作りが望まれる。
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の改善課題について、改善計画シートなどの作成には至っていないが、後日、改善項目についての報告・話し合いはされており、改善に繋がられている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	概ね2ヶ月に1回の開催をされており、運営推進会議ではサービス提供の活動内容などを報告し、参加メンバーからは要望・助言などを聴く機会にされている。又、3月には運営推進会議の一環として、心療内科の先生を講師に(認知症について)の講演会を計画されている。他に、会議メンバーの農場に(芋ほり)の招待を受けられ交流もされている。		

グループホーム うたし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	訪問した日も町役場の介護保険課の担当者から食材などについての電話アンケートが入っていた。町役場とホームの双方向性の関わり・情報提供がサービスの質の向上に反映されている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ほとんどの家族がこまめに訪問されるので、暮らしぶりや金銭管理などはその都度報告されており、領収書はその時、手渡しをされている。又、不定期ではあるが、(たよりの)発行をされており、家族と運営推進会議メンバーに配布されている。(たよりの)には入居者の様子や行事写真の他に職員紹介や職員の抱負なども記載され、ホーム全般の情報提供をされている。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	本人・家族の声が運営に反映出来るよう努められているが、トイレの改装については前年度からの要望でもあり、前回の外部評価では金銭的な事から検討課題で話し合いをされたが、今回は前向きな取り組みの意向を示された。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	新任職員については、慣れるまでの暫くの間、現任の職員と2人体制で現場に入ってもらい、現任の職員を媒介として入居者へのダメージの軽減に繋がっている。又、昼間の対応の様子などを見て、夜勤体制に組み入れている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	前回の改善事項である、全ての職員又は段階に応じた研修受講は、研修開催の地理的・時間的障害などの理由による受講機会の減少・偏りは参加可能な職員の研修受講後の報告書作成や、伝達発表の取り組みで、全ての職員に情報の提供をされている。しかし、運営規定内に継続研修年4回を謳われているが、年1回の取り組みとなっている。		鹿町町の他事業所とのネットワーク作りで合同研修の機会作りや職員の立場や経験・習熟度など考慮し、職員が働きながら技術や知識を身に付けていけるような環境作りで自己研鑽に繋がる、更なる取り組みが望まれる。
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在、鹿町町には2軒のグループホームがあり、経営者や管理者間での情報交換や訪問見学はされているが、日々のサービスや職員育成に役立つ実践的な交流や連携に繋がる取り組みには至っていない。		2軒のグループホームが協働しながらサービスの質を向上させていく目的で一丸となった組織運営など、お互いの足りないところを補うなど、連携した取り組みが期待される。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>現在、入居を希望されている方が、回数を重ねて日中のホーム生活を体験されている。又、現入居者に顔馴染みの方がおられ、本人の安心に繋がっており、泊まりも体験して貰いながら本人・入居者・職員などの相性など双方の総合的な判断で、サービスの提供・利用に繋がる取り組みをされている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>日常生活の中に入居者・職員がそれぞれに役目を持って、事にあたられており、入居者と職員の言動には共同生活者としてのやり取りがあり、嫌味のない冗談や世間話で、リビング内に笑いと和みの雰囲気がある。</p>		
.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>入居者一人ひとりに担当職員が決められており、必要な介助や思いの把握などをセンター方式のシートに記録し、サービスの提供に反映されている。</p>		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入居者一人ひとりの担当職員を中心に介護計画作成の話し合いがされ、本人・家族の要望や他の職員の気づきなど取り入れた(その人らしさ)に繋がる介護計画を作成されている。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>介護計画に沿った日々の個人記録と、モニタリングや毎月の支援経過表作成を、3ヶ月に1回又は変化時の見直しに反映されており、入居者の現状に即した介護計画の見直しがされている。</p>		

グループホーム うたし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	家族から連れて帰りたいなど外泊の希望がある時や、遠隔の専門科受診同行、入居者の不意な買い物の要望などその時々に応じた柔軟な対応で支援されている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅時からの継続受診の支援をされており、入居者の受診には必ず職員は同行し、受診・指示内容を通院記録に残されて、家族や職員など関係者間で情報の共有を図られている。又、かかりつけ医と協力医の医療連携の構築もされている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	治療の手立てがない入居者を家族や医療機関と話し合いされホームで過ごして頂く事になり、通院に伴う体力の消耗と精神的負担の軽減を図る為訪問看護のサービスを併用しながら現在、小康状態を保たれており、日々の対応も本人の様子を見ながら、家族・医療と連携した取り組みをされている。尚、ターミナルケアはホームの今後の課題であると認識されている。		
1. その人らしい暮らしの支援 (1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者一人ひとりが安心して居心地よく生活して貰えるホームを目指されており、日々の接遇にも意識した取り組みに努められている。又、会議や記録物なども個人情報・プライバシーの保護に配慮した取り組み・取り扱いで対応されている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム生活の流れの中に、入居者のペースや思いを取り入れ、集団性や個別性をタイミングを見計らって取り入れられており、入居者の満足に繋がられている。絵を描く事が好きな人、家事作業に出番を見出されている人などに活躍・発表の場面や環境作りで支援されている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	厨房で職員と共に、エプロン姿の入居者が手伝われている様子は、どここの家庭でも目にする光景である。会話があり、ふれあいがあり、生活音・煮炊きの匂いに他の入居者の五感も刺激され、それがそのまま入居者・職員が囲む食卓に投影された和やかで楽しい食事風景である。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	昼食後から夕方までの時間帯ではあるが、木曜日以外は毎日沸かされており、入居者の希望やタイミングに沿った入浴支援を心がけられている。現在、身体的・精神的な配慮の必要な入居者の為に、体調管理・環境整備など十分な配慮の基、週に1回、日曜日に入浴支援をされている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	入居者一人ひとりの趣味や特技、経験などをホーム生活に取り入れた支援をされている。又、入居者の何気ない一言を活かした取り組みで、草むしりをしている時に『ホッとする』を聞き漏らさず、その後の支援に活かされている。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	入居者で個別に入会されている町内の老人会の行事や定例会への参加や、ホームの斜交いにあるサンクスへの買い物、散歩、屋外での洗濯物干し・取り入れなど戸外へ出かける機会作りを日常の暮らしにも取り入れられている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関に施錠されておらず、玄関から直ぐリビングで、常時最低一人は職員が居る状態を保持されており、場所を離れる際は、職員間での声かけで対応されている。又、外出の傾向を察知した場合は、無理に引き止めるのではなく様子を見ながら入居者に気付かれないよう見守り、タイミングを見計らって声かけ誘導をされている。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	運営推進会議の4回目には会議の一環として、避難訓練と救命救急のシミュレーション訓練を、消防署の協力を得て取り組まれている。又、自然災害や警戒宣言発令に備えたマニュアル作りがされており、持ち出し品の準備や入居者と一緒に歩いて、広域避難場所の確認・所要時間の把握などもされており、対策と訓練などで意識付けに反映した取り組みである。		

グループホーム うたし

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	町主催の健康教室などに入居者と一緒に参加され、食品別の量に対するカロリーの目安や調理法、基本的な500キロカロリーの献立など栄養士の専門的立場からの指導を受けるなど、食育の知識を広げられホームの食事提供に反映されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビングの腰高窓からは北九十九島に面した入り江が望め、岸壁には漁船が停泊している。1日の大半を過ごされるリビングには、生け花や絵画、習字など入居者の作品がホームの装飾として取り入れられており、ソファや椅子等も入居者の動線の要所に配置され、人の気配や生活音を耳にしながら集いや独り居が自由に選べる環境である。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室からは、入居者の趣味や個性が窺え、調度品やこだわりの持ち込み品、畳の磨り減りで居室での落ち着いた過ごし方が想像できる。その中の1室は、広いテーブルと水彩道具が準備され、アトリエとしての環境作りもされている。又、壁に掲示された大好きな富士山の絵やお母さんの絵など、自慢の作品に囲まれ安らげる場所になっている。		